

能するような工夫と配慮

ウ 教科に応じたノートのとり方
学習の仕方の指導

エ 異学年による協力学習の仕方の

指導と自学自習の習慣化

オ 直接指導に生きるような間接指導の工夫

(3) 自然環境を教材や体験学習に生かす工夫

へき地・小規模校においては、豊かな自然環境を生かして、教材を地元を開拓するように創意工夫することが望まれる。

そのためには、各教科等の指導の中で観察・調査・実験・栽培・飼育などの諸活動製作・創作などの表現活動など、地域の豊かな自然環境を生かした多様な体験的な活動を取り入れることが大切である。

(4) 教育機器や資料の積極的な活用

児童生徒の興味・関心を高めたり、理解を助けたりするための大きな役割を果たす視聴覚教材や教育機器を積極的に活用し、学習意欲の喚起をするとともに学習の仕方を身につけるようになることが大切である。

(5) 指導と評価の一体化を図る

少人数学級のよさは、個々の児童生徒に目が届きやすく、学習のつまづきをとらえて個に即した指導がしやすい点にある。したがって、一

人一人の学習結果やつまずき等を個人カルテなどに記録し、評価や今後の指導に役立てるように配慮して、指導と評価の一体化を図ることが重要である。

十 体育、保健・安全、及び給食指導の充実

動などの関連を十分に図り、児童生徒が自ら進んで運動に取り組み、体力・運動能力を向上させることができることが重要である。

(1) 指導計画の作成

全体計画、体力つくり推進計画、部活動指導計画等については、学校の教育活動全体を通じて体育的な活動が適切かつ積極的に実践されるよう、改善・作成する。特に、中・高等学校の計画については、選択制授業を積極的に取り入れる。

(2) 運動の楽しさの体験

児童生徒の発達段階を考慮しながら、運動の特性に触れる楽しさや喜びを十分に味わわせるとともに、最善を尽くして運動に取り組み、技能の向上が図られるよう学習過程や学習の場を工夫する。

(3) 運動への主体的な取組み

児童生徒が進んで運動に取り組むことができるよう、発達段階や一人

一人の能力に応じた課題や活動の場を自ら選択できるようにするところができる。

(4) 体力・運動能力の向上

スポーツテスト等の結果に基づいた一人一人の運動メニューを作成するなど、課題に基づいた具体的な解決を図るとともに、その解決に向か

つて日常的に継続的に取り組むことができるよう、個人記録表や施設設備を積極的に活用する。

2 保健・安全指導の充実

保健・安全指導は、児童生徒の学校生活はもとより、生涯にわたって健康で安全な生活を実践することの基本的な能力や態度を育成することをねらいとし、児童生徒の発達段階や特質に応じて、各教科・道徳・特別活動等、学校の教育活動全体を通じて適切に推進する必要がある。

そのためには、次の領域において教職員が一丸となって取り組むことが大切である。

(1) 学校保健委員会の活性化

学校医、学校薬剤師等の適切な指導助言を受けながら学校保健委員会を十分に機能させて、全教職員の共通理解を図り指導にあたる。

(2) 各教科の取組み

体育(保健体育)、理科、家庭(技術・家庭)等、各教科の特性に応じた保健・安全指導の在り方にについて指導する。

(3) 特別活動の取組み

ア 学級(ホームルーム)活動

学校における保健指導の中心は学級活動の時間であり、次の点に留意して指導に当たることが大切である。

(ア) 年間を通して計画的・継続的に

1 体育指導の充実

体育指導は、体育の授業を中心としたながら、体育的な行事や運動部活